

日本生涯スポーツ学会
Japanese Society of Lifelong Sports

News Letter

2021 JUNE

【目次】

- 会長挨拶
- 日本生涯スポーツ学会第22回大会の報告
- 日本生涯スポーツ学会第22回大会【大会発表賞受賞者コメント】
- 日本生涯スポーツ学会第23回大会のご案内
- 編集委員会からのお知らせ
- 事務局からのお知らせ
- 関連学会等情報
- 新入会員

会長挨拶

『 生涯スポーツのバージョンアップを目指して 』



日本生涯スポーツ学会 会長 萩 裕美子

皆様、お元気でお過ごしでしょうか。昨年からのパンデミックは思いのほか長引き、今もなお様々な影響を与えています。1年延期となったオリンピック・パラリンピックは開催まで1か月余りとなりましたが、マスメディアではいまだにその開催を危ぶむ情報が流れています。今こそこのような状況の中で開催する意味を考え、情報発信する必要があるのではないのでしょうか。6月5日の読売新聞にJOC会長の山下さんが開催意義について述べています。このような情報がより広く国民に伝わることも重要かと思えます。ワクチンが浸透し少しでも早く、思いっきりスポーツのできる、また応援できる社会状況になることを願うばかりです。

さて、昨年の研究大会は仙台大学が主幹となり、「東北より2020復興五輪への歩みと効果を検証する」というテーマで実施されました。コロナ禍にあつて急遽、Webでの開催となり、大会委員長の仲野先生はじめスタッフには大変なご苦勞をおかけしました。しかしWeb開催でも損傷なく実施され、復興五輪の意味を考える良い機会であったと思えます。今年は延期されたオリンピック・パラリンピックが開催されることを期待し、東海大学が主幹となりました。今年こそは対面で実施し皆様方と大いにディスカッションをしよう準備を進めてきましたが、緊急事態宣言も発出し今後の動きも不透明なことから、やむなくWeb開催にすることを決断いたしました。リモートワークも1年余り続き、その活用方法もだいぶ慣れてきたのではないかと思います。Web開催の利点を大いに活かして、年に1回のお披露目、ディスカッションの場を設定したいと考えております。

第23回大会のテーマは「「かわる・つながる・ひろがる」生涯スポーツ5.0」です。ウイズコロナ、アフターコロナ、そしてオリパラレガシーを意識して、新たなバージョンアップという意味で設定しました。5.0とは内閣府が提唱しているSociety 5.0を踏まえたものです。コロナによるパンデミックは社会の変化を加速させました。スポーツは社会の変化に敏感です。変わろうとしている社会の中で生涯スポーツはどのように関わっていけばいいのか。この学会大会で一緒に考えていければと考えています。

生涯スポーツは競技スポーツという言葉に対峙する形で生まれてきました。しかし現場には境界線があるわけではなく、関わり方の違いにすぎません。来年には1年延期されたワールドマスターズゲームズ2021関西が控えております。様々なスポーツとの関りを目にする非常に貴重な機会です。これを機に是非、生涯スポーツ研究の促進につなげていただきたいと思います。また、特に若手研究者にはこれからのスポーツ界の進むべき方向を模索していただきたいと思います。本学会は学部生も発表できるユニークな学会です。これからの社会をつくる若い人々の発想や考え方、ライフスタイルも大いに注目されるところです。これまでの既成概念にこだわらず、新しい発想やアイデアを積極的に発表していただきたいと思います。

コロナ禍で世の中が沈みがちな昨今ではありますが、スポーツには人々を元気づける力があります。その力を研究という形で社会に表明していきましょう。10月末、豪華シンポジストを準備してお待ちしております。リモート上ではありますが皆様の元気な顔を拝見できることを楽しみにしております。

日本生涯スポーツ学会第22回大会の報告

2020年10月31日(土)～11月1日(日)の2日間にわたって開催された第22回学会大会は、本学会大会では初となる「Web(大会ホームページ)を用いたライブ配信およびオンデマンド配信、Web会議システムによるリアルタイム方式の併用」で開催いたしました。

学会大会のオンライン開催は、配信させていただいた本学にとっても初の試みでした。そこで、実行委員会には学会とは直接関係ない情報関係に詳しい本学のスポーツ情報マスメディア学科の先生2名やマネジメントコースの先生2名、大学院生3名も入っていただき準備を進めました。また、大会事務局長は学会会員の馬先生に担当頂き、二日目のワークショップは溝口先生、昼のセミナーは池田先生にお願いするなど、仙台大学の人的資源をフル活用させていただきながらの運営となりました。

一方、他の学会大会を参考に本大会専用のHPも立ち上げ、学会参加者にとって分かりやすい運営を試みました。おかげさまで、心配していた配信上のトラブル等も起こりませんでした。思い返せば試行錯誤の連続でしたが、無事終わることができ、安堵しているところです。この2日間で、延べ143人のご参加をいただきました。ご参加いただいた皆様ありがとうございました。

一方、復興を成し遂げてきた宮城県の現状を参加者の皆さんに見ていただく良い機会にもなると思っていたので、コロナ禍によるオンライン開催となった事は大変残念でした。

最後に、オンデマンド開催にも関わらず、ご協賛・ご支援くださいました企業・大学等の皆様方に、実行委員会を代表いたしまして、改めて御礼を申し上げます。

日本生涯スポーツ学会第22回大会実行委員会
委員長 仙台大学 仲野 隆士

■期 日:2020年10月31(土)～11月1日(日)

■会 場:大会HPからのWeb開催 ※配信場所は仙台大学(宮城県柴田郡柴田町)

■主 催:日本生涯スポーツ学会

■運 営:日本生涯スポーツ学会第22回大会実行委員会

委員長 仲野 隆士(仙台大学)

委 員 馬佳 濛(仙台大学) 井上 望(仙台大学) 藤本 晋也(仙台大学)
溝上拓志(仙台大学) 弓田 恵里香(仙台大学) 中曽根 裕(仙台青葉学院短期大学)
菅原 一昭(仙台医療福祉専門学校) 中村 祐太郎(富山高等専門学校)
工藤 康宏(順天堂大学) 工藤 保子(大東文化大学) 秋吉 遼子(東海大学)
松谷 成・渡邊 万里映・鹿野 あかり(仙台大学大学院) (順不同)

■協賛企業・団体(6団体)

学校法人朴沢学園 仙台大学、有限会社 市村出版、公益財団法人 笹川スポーツ財団、
セノー 株式会社、学校法人順天堂 順天堂大学、株式会社 協栄 (順不同)

■ 大会テーマ 『東北より 2020 復興五輪への歩みと効果を検証する』

■ 開催形式 基調講演・シンポジウム : Zoomを用いたウェビナー(ウェブセミナー)方式
一般口頭発表 : Zoomを用いたリアルタイム方式(事前録画なし)
ポスター発表 : ポスターを大会HPに掲載し、質疑応答はチャットで行う

■ 大会参加者 143名(会員:93名、非会員50名)、基調講演とシンポジウムの出席者数264名

■ 発表演題数 口頭発表:一般口頭発表18演題、若手研究発表8演題、ポスター発表:12演題

■ 大会日程

10月31日(土)		11月1日(日)	
9:00	開会式会場(Zoom)へアクセス確認	8:45	エンジョイエクササイズ
9:30	開会式	9:50	<一般口頭発表入室可能時間
9:50	<一般口頭発表入室可能時間>	10:00	>
10:00	口頭発表 A(一般口頭発表)		口頭発表 B(一般口頭発表)
12:40	<総会会場入室可能時間>	12:40	(若手研究発表賞)
12:50	総会	12:50	<ランチョンセミナー入室可能時
13:40	基調講演	13:40	間>
15:00	シンポジウム		ランチョンセミナー
17:10	ポスター発表		閉会式
18:30	フリータイム(Zoomにて座談会)		

■ 基調講演

テーマ 「スポーツ地域マネジメント」
 演者 原田 宗彦(早稲田大学)

■ シンポジウム

テーマ 「東北より2020復興五輪の歩みと効果を検証する」
 演者 上田 栄治(福島県株式会社Jヴィレッジ副社長)Jヴィレッジの取り組み及び福島の歩み
 熊谷 大(宮城県利府町長)宮城スタジアムを有する利府町の取り組み及び宮城の歩み
 木村 久(岩手県文化スポーツ部オリパラ推進室長)
 ラグビーWCを開催した釜石復興スタジアムの取り組みと効果及び岩手の歩み
 コーディネーター 仲野 隆士(仙台大学)

■ 大会企画

エンジョイエクササイズ
 講師:溝口 絵里加 氏(仙台大学)

■ 表彰[エントリー数 若手研究発表賞(8題)、ポスター発表賞(学部生部門5題、大学院生部門4題)]

○若手研究論文発表賞

松下 宗洋(東海大学)、久保田晃生(東海大学)
 テーマ:社会経済的地位別のスポーツ実施状況―「する」スポーツ格差の基礎的検討―

○若手研究論文発表奨励賞

根本 裕太(東京都健康長寿医療センター研究所)、菊賀 信雅(株式会社プロフィットジャパン)、
 渡邊 夏海(東京YMCA社会体育・保育専門学校)、丸藤 祐子(医薬基盤・健康・栄養研究所)、
 福島 教照、井上 茂(東京医科大学)
 テーマ:民間フィットネスクラブにおける新規会員の退会予測因子の特定および予測モデルの構築
 ―退会予測確率把握のためのアプリケーションの開発―

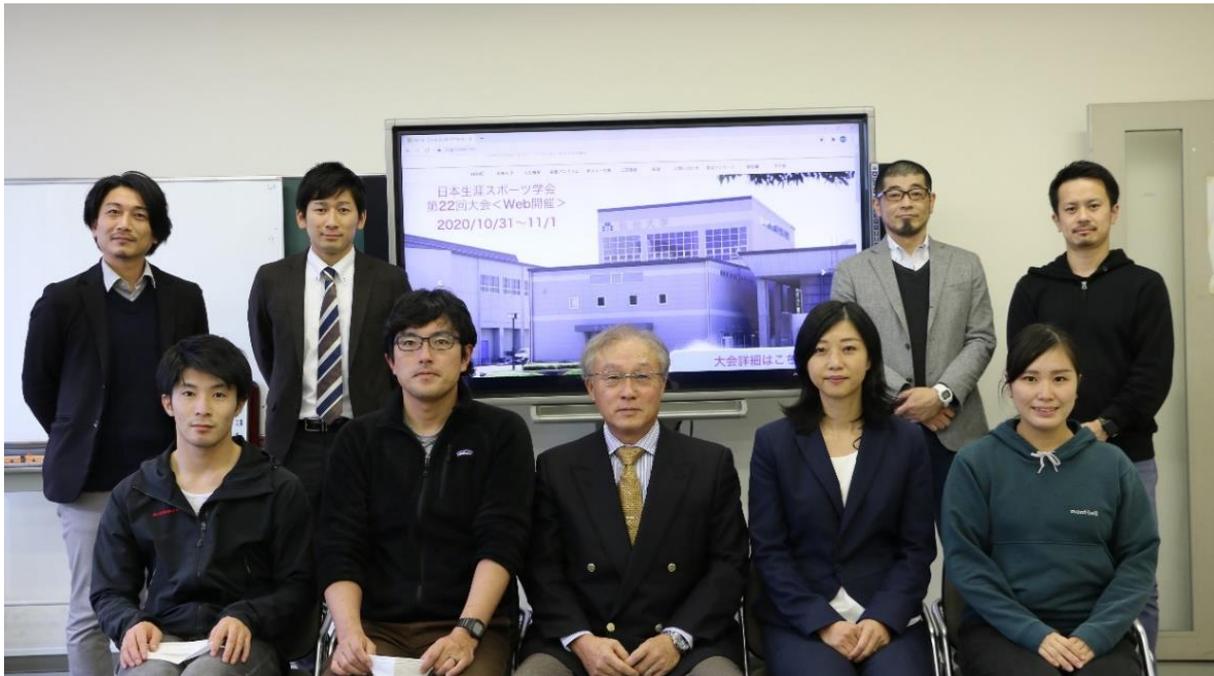
○ポスター発表賞(学部生部門)

【最優秀賞】

川村亮輔、松田 優里、石丸 日和、榎本 皐、マリアム サプリナ、伊藤 央二(和歌山大学)
 テーマ:課外活動を行う大学生のストレスに関する研究
 ―運動系と文化系の相違および課外活動自粛中と自粛明けの相違に着目して―

○ポスター発表賞(大学院生部門) 該当者無し

■記録写真：日本生涯スポーツ学会第22回大会・オンライン配信



A501 演習室を大会本部に設定し運営に関わって頂いた本学スタッフ（OB 社会人含む）



基調講演・原田宗彦先生（早稲田大学）



エンジョイエクササイズ実施場面・溝口先生



シンポジウム実施場面・仲野（コーディネーター）



運営場面・馬・井上・藤本・溝上先生

■ 日本生涯スポーツ学会第22回大会【大会発表賞受賞者コメント】

○若手研究論文発表賞

松下 宗洋 先生(東海大学)

テーマ:社会経済的地位別のスポーツ実施状況
—「する」スポーツ格差の基礎的検討—



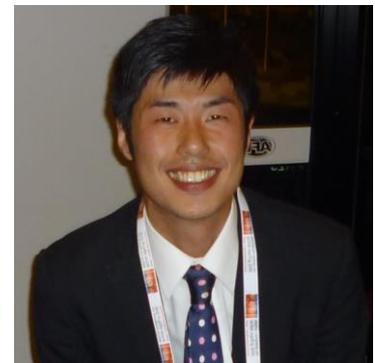
この度は若手研究発表賞を頂き感謝申し上げます。私事ではありますが、初めて研究発表した学会が10年前の仙台大会(第12回大会)でした。当時は修士1年でしたが、本大会では母校の教員として発表し、さらに自分のゼミの学生も発表しました(こちらも同じくらい嬉しいです)。お陰様で少しは成長できたのかなと思っています。

さて本研究テーマであるスポーツ格差は、研究生活を始めたときから抱いていた「スポーツをしたくても出来ない人に、スポーツが出来る仕組みを整えたい」という気持ちで始めた研究です。これまで勉強してきた疫学の視点に加え、社会学などの視点も必要なテーマです。これからも多分野にわたる本学会で報告する予定ですので、引き続き皆様からご指導頂ければ幸いです。

○若手研究論文発表奨励賞

根本 裕太 先生(東京都健康長寿医療センター研究所)

テーマ:民間フィットネスクラブにおける新規会員の
退会予測因子の特定および予測モデルの構築
—退会予測確率把握のためのアプリケーションの開発—



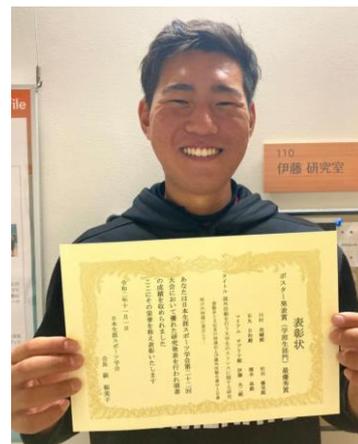
このたびは奨励賞という栄えある賞を授与していただき、ありがとうございます。
受賞対象となった研究では、民間フィットネスクラブの新規会員における早期退会の予測モデルを構築し、フィットネスクラブの現場で予測モデルが活用されるための仕組みづくりをしました。その結果、9変数を含めた予測モデルを作製し、フィットネスクラブの運営者が各会員の退会リスクを確認できるためのアプリケーションの開発につながりました。今後の研究では、予測モデルの外的妥当性を検証することに加え、全国のフィットネスクラブに本アプリケーションを普及することによって、新規会員の退会抑制につなげていきたいと考えております。

○ポスター発表賞(学部生部門)

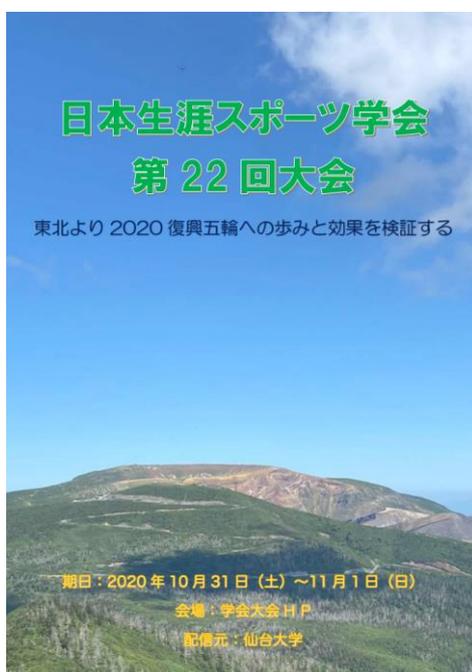
【最優秀賞】

川村亮輔さん(和歌山大学)

テーマ: 課外活動を行う大学生のストレスに関する研究
 — 運動系と文化系の相違および課外活動自粛中と
 自粛明けの相違に着目して—



この度は、栄えある最優秀賞にお選びいただき、誠にありがとうございます。一同を代表して御礼申し上げます。まさか自分たちがこのような賞をいただけるとは思っておらず驚きもありましたが、多くのポスターの中から選んでいただけたということが大変嬉しく思っております。日々伊藤先生より手厚いご指導をいただいている感謝の気持ちを、この賞で形にしてお返しすることができ、ホッとしています。今回の受賞を機に、私たちも生涯スポーツについて考え、発展に繋げていく所存です。今後ともより一層のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。この度はありがとうございました。



<第22回大会号表紙>

日本生涯スポーツ学会第23回大会(オンライン開催)のご案内

＜第23回大会実行委員長＞ 東海大学 体育学部 生涯スポーツ学科 学科長 野坂 俊弥



下記の要領で第23回大会を開催するべく、大会実行委員会ではミーティングを重ね、侃々諤々の熱い議論を繰り広げております。巻頭の会長ご挨拶にもあるとおり、新しい時代における生涯スポーツをいかに展開するのか、多くのみなさまの議論へのご参加を心待ちにいたしております。

＜大会概要＞

【期 日】 2021年10月30日(土)～10月31日(日)

【開催方法】 大会HPからのオンライン開催 ※配信場所は東海大学(神奈川県平塚市)

【主 催】 日本生涯スポーツ学会

【主 管】 日本生涯スポーツ学会第23回大会実行委員会

＜大会テーマ＞

「かわる・つながる・ひろがる」生涯スポーツ5.0へ

＜大会日程＞

	10月30日(土)	10月31日(日)
9:00		
9:30	開会式(30分)	
10:00	基調講演(25分)	口頭発表3 A・B(90分)
10:30		
11:00	パネルディスカッション(90分)	休憩
11:30		
12:00	昼食(ランチョンセミナー)	口頭発表4 A・B(90分)
12:30		
13:00	12:50～総会(40分)	閉会式(30分)
13:30		
14:00	口頭発表1 A・B(90分)	新理事・新委員会打合せ(60分)
14:30		
15:00	休憩	
15:30		
16:00	口頭発表2 若手研究発表(90分)	※時間・内容は、発表演題数等により変更される場合があります。
16:30		
17:00	ポスター発表 質疑(50分)	
17:30		
18:00	イブニングセミナー(60分)	
18:30		
19:00	終了	

※参加申込方法等の詳細は、第23回大会開催要項をご覧ください。

※大会大会に関する新たな情報は、随時学会HP(<https://jsls.jp> : 学会大会情報)もしくは、フェイスブック(<https://www.facebook.com/lifelong.sports/>)にアップいたします。こちらをご覧ください。

■編集委員会からのお知らせ

編集委員会では、規定のページ数を超過した論文(図表のページ数の扱いも含めて)がいくつか投稿されている現状を踏まえ、この度、その取扱いを明確にするための『生涯スポーツ学研究(Japanese Journal of Lifelong Sport)投稿・執筆・審査規程』の改定を行いました。

具体的な改定箇所は以下の2箇所となります。確認のほどお願いいたします。また、これに合わせてチェックリストにもその旨を追記しております。論文投稿の際にご確認ください。

なお、本規定の全文とチェックリストは、HP で確認いただけます。

<https://jsls.jp/study/paper.html>



【改定箇所】 ※赤字部分

2.執筆規程

〈原稿の長さ〉

2.4. 投稿規程「1. 2. 掲載内容の区分」により、投稿論文の原稿ファイルのページ数を、総説 24 ページ以内、原著論文など総説以外の論文 16 ページ以内とする(1 ページは 40 文字×30 行、いずれも図表を含む)。 なお、査読結果に基づき修正を加えた原稿の ページ数が超過した場合は投稿者に 超過分の実費 を請求する。

〈図・表および写真〉

2.10.1. 図・表は原稿本文とは別の紙を用い、 図・表 1 つにつき 1 ページとして 作成する。そのまま写真製版して印刷できるようにする。ただし、特殊な印刷については(例えばカラー印刷等)、その実費を投稿者が負担する。原稿本文の余白に、およその挿入位置等を指定する。

以上

編集委員会委員長:伊藤 克広

■【事務局からのお知らせとお願い】

●今年度は、学会大会の実行委員会も東海大学となりますが、学会の年会費と学会大会の参加費の振込先は別となります。ご注意ください。

●連絡先(住所、所属、メールアドレス等)の変更は、学会ホームページにあります「会員情報変更届」に入力の上、事務局まで送付ください。

E-mail jp.lifelong.sport@gmail.com

■関連学会・イベント等情報

- 第7回 TAFISA 世界スポーツ・フォー・オールゲームズ(バーチャル開催)
2021年6月18日～24日 ポルトガル リスボン
<https://www.tafisalisboa.com/en/>
- 第10回 ワールドマスターズゲームズ 2021 関西 (2022年に開催延期)
2022年5月13日～29日 日本 関西広域 2府7県
<https://wmg2021.jp/>
- 第27回 TAFISA ワールドコンGRESS (2022年に開催延期)
2022年6月8日～12日 スロベニア ポルトロス
<https://TAFISA World Congress Postponed to 2022 | TAFISA>
- 「TAFISA ミッション 2030 スポーツ・フォー・オールを通じてより良い世界を築く」日本語訳
http://www.tafisa.org/sites/default/files/pdf/2021/TAFISA_Mission2030_JP.pdf



■新入会員紹介 2020年4月～2021年6月12日現在 理事会承認分

紺田 俊 (鈴鹿大学)	丸 朋子 (立命館大学大学院)	
元嶋 菜美香 (長崎国際大学)	島本 歩 (公益財団法人ライフスポーツ財団)	
江原 謙介 (追手門学院大学)	松原 優 (早稲田大学大学院)	
高山 昌子 (大阪国際大学)	吉留 早木子 (鹿児島純心女子短期大学)	
鹿野 あかり (仙台大学大学院)	小原 慶祐 (岐阜協立大学大学院)	
和田 由佳子 (立命館大学)	高楠 康浩 (順天堂大学大学院)	
後藤 里織 (東海大学大学院)	根本 裕太 (東京都健康長寿医療センター研究所)	
渡部 亜耶香 (東海大学)	二見 隆亮 (静岡大学大学院)	
丹下 葵 (順天堂大学)	佐原 里加子 (同志社大学)	
古屋 晴菜 (順天堂大学)	高橋 のぞみ (順天堂大学)	
松田 優里 (和歌山大学)	川村 亮輔 (和歌山大学)	
野坂 俊弥 (東海大学)	井上 望 (仙台大学)	
瀧本 誠 (駒澤大学)	福田 昌平 (東海大学大学院)	
三橋 正幸 (東海大学大学院)	黄 威 (兵庫県立大学大学院)	
黄 国英 (兵庫県立大学大学院)	今野 亮 (明治薬科大学)	(入会順、敬称略)

《 編集 日本生涯スポーツ学会 広報委員会 》

日本生涯スポーツ学会事務局

〒259-1292 神奈川県平塚市北金目 4-1-1 東海大学 体育学部生涯スポーツ学科 久保田研究室気付
TEL:0463-58-1211 (内 3594)
E-mail: jp.lifelong.sport@gmail.com HP: <https://jsls.jp>